

飯伊地区 産業経済動向

No.546 2024/9
(6.10.25 発行)

 **飯田信用金庫**
IIDA SHINKIN BANK
しんきん南信州地域研究所

<https://www.iidashinkin.co.jp/>
〒395-0044 飯田市本町 1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132



Contents

表紙 写真：大勢の人で賑わう第17回南信州獅子舞フェスティバル（飯田市・10月20日撮影）	P 1
製造業 景況DIは前月から好転。産業機器分野で景況感好転の声が多い	P 2
建設業 9月の公共工事は前年比やや増加。8月の住宅着工は前年比2%増加	P 4
商業・サービス業 景況DIは前月から悪化。幅広い業種で物価高の影響を指摘する声	P 5
しんきんリニア・三遠南信対策室です リニア時代を迎える飯伊地域の資源(10) 小笠原氏(1)	P 6
主要経済統計	P 8
飯伊地区全産業景況DIの推移・主要経済指標	P 10

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ（<https://www.iidashinkin.co.jp/>）に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならず、全国で行っています。



再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIは前月から好転。産業機器分野で景況感好転の声が多い

当月の製造業の業況判断指数（DI）はプラス12.2で、前月から35.3ポイント上昇。翌月予測はプラス24.4で、前月から9.4ポイント上昇。機械製造の中で、特に産業機器分野で売上増加に伴って景況感が好転したとの声が多く、指数を押し上げた。一方で、食品製造では一部に景況感悪化の声があり、物価高による消費動向への影響を指摘する声が多い。先行きについては、機械製造のうち、電気・精密・工学分野と産業機器分野で好転を見込む声が多い。一方で、半導体分野や食品製造では、横ばいを見込む声が多かった。

主な業種の動き

●電気・精密・光学

- ☑受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれるが、増加の声がやや多い。先行きについても、販売、受注ともに増加見込みの声がやや多い。
- ☑景況感…… 当月の景況感は横ばいとの声が多い。先行きについては好転を見込む声が多い。

〔企業からのコメント〕

- ・「予実では予算100%をクリアしているが、全体の好況感はまだない。今後については具体的な新規の引き合いが多くあるので、この先の見通しは明るい」「客先により大きく伸びたところもあるが、スポットとの情報もあり様子見中」
- ・低迷していたFA事業の受注に少しずつ動きが見られるようになってきた。車載事業はEVの失速や自動車の品質問題の影響を受け、売上が伸びない状況となる。

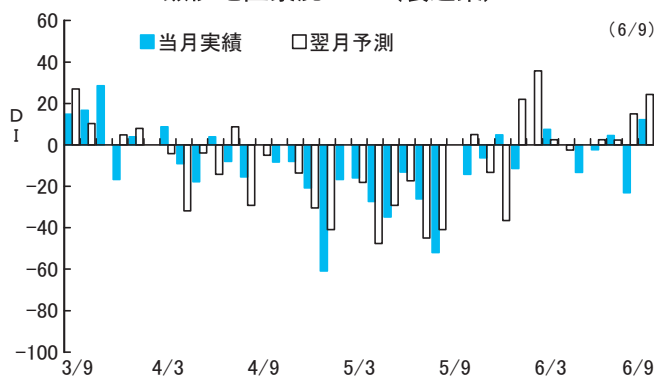
●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- ☑受注、販売… 受注の前月比は増加との声が多く、販売は全ての事業者で増加。販売の先行きは増加を見込む声が多い。
- ☑景況感…… 当月の景況感は横ばい～好転で、横ばいとの声が多い。先行きについても同様。

〔企業からのコメント〕

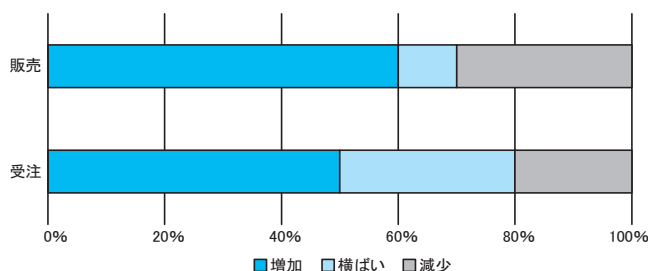
- ・「生成AI向けの需要が前倒しとなっていており、また春先は一旦落ち着くものの来夏以降も継続する情報が入ってきており、徐々に需要回復が鮮明となっていてきている。一方で、地政学的リスクやインテル、サムスン電子の不振等のネガティブ要素もあり、注視が必要」「メイン顧客からまとまった注文があり、9月は一時的に良い結果となった。ただし、依然として先行きは不透明」「半導体後工程は横ばいの状況だが、前工程の需要が一気に回復している」
- ・「半導体業界は良さそうな話は出ているが、実感はわからない。年内はこの状態を維持すると考える。上振れするのであれば、AI関係とスマホ関係の復調と考えている」「半導体製造装置市況は夏以降、若干上向き傾向にあるものの、一昨年からメーカー在庫が未だ消化しきれていないため、サプライチェーンへの波及が遅れている。今現在、低迷しているインテル等の北米半導体主要メーカーの復活次第では今後大きな動きとなると予想される」
- ・原材料高騰分の価格転嫁は進んでいるようだが、労務費等の価格転嫁を交渉できたサプライヤはほとんどいない状況。

飯伊地区景況DI（製造業）

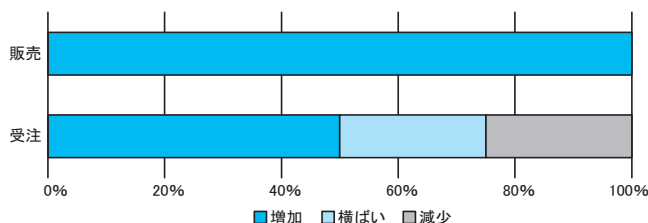


【DI（ディフュージョン・インデックス）】とは…
景気に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。
「先月と比べて景気が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景気が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合



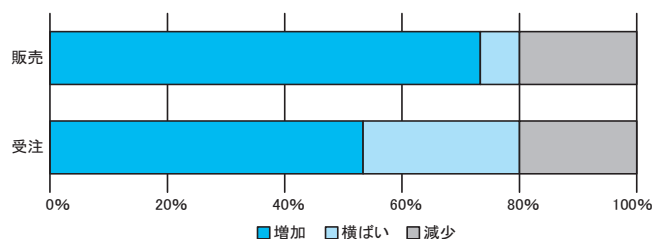
半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



●産業機器、医療機器向け等機械部品

- ✓受注、販売… 販売、受注ともに、増加との声が多い。先行きについては、販売、受注ともに増加見込みの声がやや多い。
- ✓景 況 感…… 当月は好転との声が多い。次月以降は横ばい見込みの声が多いが、次いで好転見込みの声が多い。

産業機器、医療機器向け部品前月比回答割合



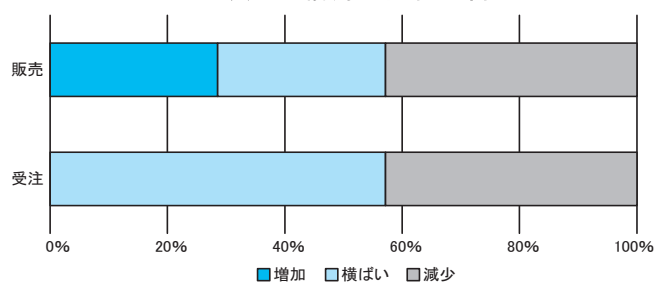
[企業からのコメント]

- ・「7月以降急に受注が増えた。特別な要因ははっきりしないが同業他社の様子を聞いても似たような感じだという。自動車業界で言うとEV一辺倒と宣言したもののそうは行かず、方向転換の道を模索していると思われる」「産業機器関連は、昨年の状況より改善。中国市場からは実需に沿った注文が入ってきている」「航空・防衛産業が好調で売上が増えている」「現状はあまり芳しくないが、来年以降は動いてくるのではという声が多い」「11月頃から、やや好転の予想」「中国向け製品・部品の減少が影響」「大口案件が少なく、思うように売上が伸びない」
- ・付き合っている業界により、波が激しい状況で、仕事が少ない会社が半分ぐらいと感じる。

●食品製造（漬物、半生菓子、菓子原料、その他食品）

- ✓売 上…… 漬物の前月比はやや増加。菓子の前月比は業者により増減分かれる。先行きについては、横ばい～やや増加で、横ばいを見込む声が多い。
- ✓景 況 感… 当月はやや悪化～横ばいで、横ばいの声が多い。先行きについても横ばいを見込む声が多い。

食品製造 前月比回答割合



[企業からのコメント]

- ・「秋口は比較的落ち着いている状況。物価高で、消費者の購買意欲も下がっている可能性もあり」「食料品の消費動向は、節約志向の継続によりなかなか上向かない」
- ・「異常気象の影響で原材料の仕入れが困難な状況で、チャンスロスが発生している」「取引先によっては値上げを認めてもらえるが、かなり先伸ばしになる取引先もあり、仕入れ価格の上昇を転嫁出来ず、苦しんでいる」「原材料、包装資材について値上げの依頼が多数ある」
- ・「人員対策として、賃金のベースアップを行う」「10月に、ミャンマーから特定技能者として入社させる予定」「採用については随時検討している」
- ・競合他社が、国産大豆製品に参入してきており、価格が崩れる危険性が出てきた。

●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

- ✓売 上 … 前月比はやや増加～増加。景況感はやや好転～好転で、先行きも好転を見込むという。

[企業からのコメント]

- ・縁起物（主に授与品）市場は増減幅は少なく、コロナ禍では激減したものの極めて安定した業界と言える。限られた市場の中、日本製と海外製との競争が行われているが、昨今の円安傾向の中で、国産品への追い風となり年々受注増で推移している。
- ・現在は正月飾製品に追われているが、他の商品の事業を各社探求している。将来的には現在の商品作りだけでは不安。

●上記以外の製造業

- ✓建築用金属製品… 販売は前月比では横ばい、前年比では増加。景況感横ばいで、先行きも大きな変化はない見通しという。
- ✓自動車向け部品… 販売は前月比でやや減少～横ばい。景況感はやや悪化～横ばいという。
- ✓印 刷…………… 販売は前月比で増加、前年比は業者により増減分かれる。

[企業からのコメント]

- ・建築資材の高騰、労務不足等の影響で、再開発以外の新規の建築案件がかなり減っている。
- ・先月・昨年と比較して売上が伸びた月となった。ただし受注件数が増えたのではなく、スポット品の大型案件が数点あり、売上に貢献した。
- ・「印刷関連の資材が大幅な値上げとなり、製品に転嫁していかなければならない。業界としても、お客様の理解を得られるよう一丸となり、価格改定に臨んでいきたい」「印刷資材について、メーカーが揃って値上げをしてくれている。価格転嫁をしっかりとやらなければ、厳しさが増していく」
- ・10月1日から郵便料金が値上がりとなり、郵便離れがさらに加速する不安。年賀状印刷もかなり減ってしまう。

建設業

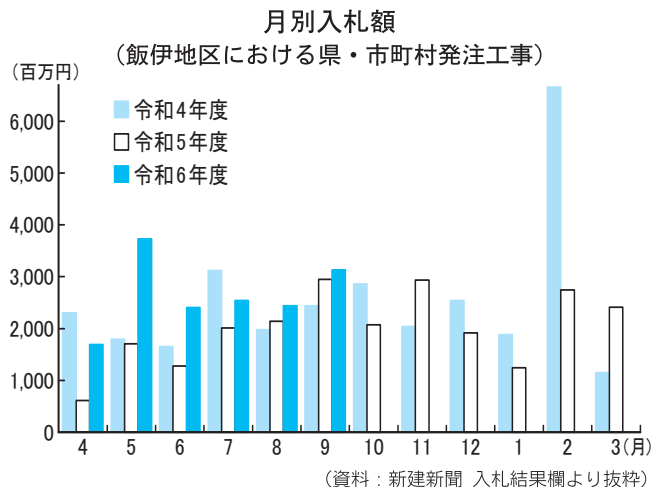
官公需

概況 9月の公共工事入札金額は前年比で6.3%増加、一昨年比では28.5%増加

☑公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約31.3億円（10月15日調査時点）。前年に比べ6.3%増加、2年前との比較では28.5%増加。

☑景況感…………… 当月は横ばいとの声が多くを占める。先行きについては一部に好転、悪化を見込むとの声があるが、横ばいを見込む声が多い。

☑原材料価格…………… 当月は、横ばいとの声と上昇の声が半々で、先行きについては上昇を見込む声が多い。



[企業からのコメント]

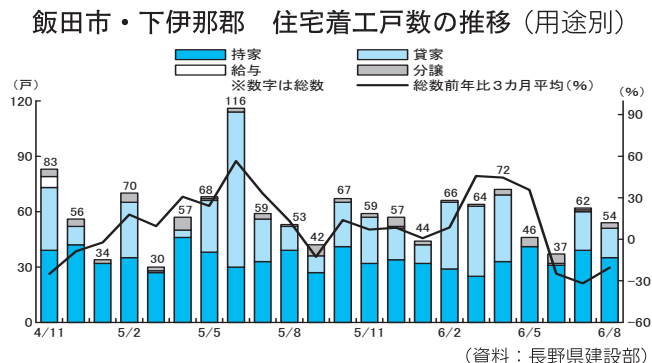
- ・「前年同月よりも受注金額は伸びている。長寿命化工事の受注が顕著」「受注額は前年比で増加。工事高も増加している」「今年度は大型工事の受注が増加し、前年比で受注残高は増加」「小規模工事は多数あるが、災害関連工事が今年は少ないため、全体的に売上減少の見込み」
- ・「資材価格は上昇したままで、今後もさらに値上げが見込まれる。資材の上昇に対して工事価格の上昇が追いつかない」「骨材は今後さらに値上げの方向」
- ・「人員の高齢化が進んでいる。今後、技術教育の増強を図る」「施工社員不足の状況が続いている」

民需

概況 令和6年8月の住宅着工戸数は54戸で前年比2%増加。
持家は減少も、貸家、分譲が増加し、2か月続けて前年比プラス

☑住宅着工戸数… 当地区の8月の住宅着工戸数は54戸。前月比13%減、前年比では2%増。持家の戸数は35件で前年（39件）から減少。貸家が16件で前年（13件）から増加。分譲は3件で、前年（1件）から増加。

☑景況感…………… 当月は横ばい～やや好転、先行きは好転を見込む声が多い。当月、先行きともに悪化との声はなかった。



[企業からのコメント]

- ・現場の職人が不足している。特に大工が少ない。

建設資材等

概況 9月の生コンの売上は前月比横ばい～増加、前年比は増加。
骨材は前月比は増加、前年比はやや増加～増加

☑生コン … 売上は前月比は横ばい～増加、前年比では増加。

☑骨材 … 売上は前月比で増加、前年比ではやや増加～増加。

[企業からのコメント]

- ・当月の生コンの主な出荷は、リニア関連工事、三遠南信工事、病院建設、砂防堰堤工事等に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の3割強。
- ・「今月は生コン向け骨材の売上が多かった」「9月は、リニア関連で喬木の橋梁への生コン供給が多く出たために、骨材も出荷が多かった。生コン各社も、7～8月を取り戻すような勢いでの出荷があったため、骨材納入各社も出荷を確保できた模様」「大きな工事もなく、出荷は低迷」
- ・材料関係の業者から、来年4月から値上げをしたいとの話が来ている。物価上昇が止まらない。出荷先に対してどのように話をしていくか、今から頭が痛い。
- ・「採用については、予定人員をとりあえず確保できた。今後については検討中」「従業員が辞めないように、対策を考えなければいけない」

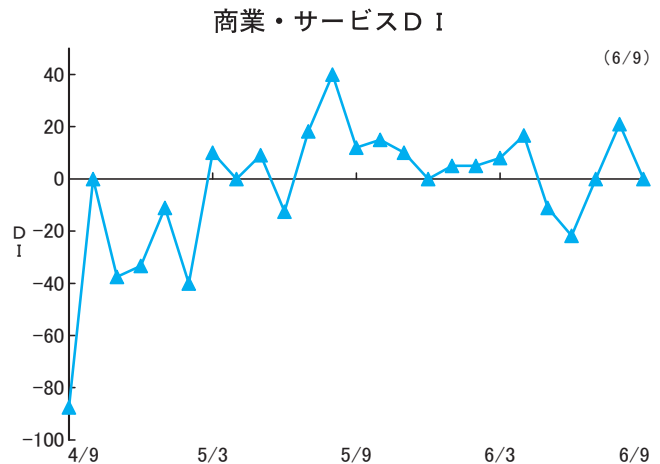
商業・サービス業

概況 景況DIは前月から悪化。幅広い業種で物価高の影響を指摘する声

当月の商業・サービス業の業況判断指数（DI）は0.0で、前月から21.1ポイント低下。

観光シーズンの8月には景況感好転の声が多かったが、9月は悪化もしくは横ばいとの声が多くなり、指数が悪化した。長引く暑さによる影響を指摘する声のほか、小売業、卸売業、飲食業、宿泊業など幅広い業種で物価高による影響を指摘する声が聞かれ、消費動向への影響や、仕入価格上昇による利益減少、10月以降のさらなる値上げに対する心配の声などがあつた。

次月以降は横ばいを見込む声が多いが、好転見込みと悪化見込みとの比較では、好転を見込む声やや多い。



主な業種の動き

●小売業 概況 売上の前月比は業者により増減分かれる。先行きは横ばいを見込む声が多い

☑売上 … 前月比は業者により増減分かれる。先行きはやや減少～横ばいで、横ばいの声が多い。

☑景況感 … 当月は業者により見方が分かれる。先行きは横ばいを見込む声が多い。

〔企業からのコメント〕

- ・「野菜が一部高騰。松茸は少ない」「ガソリン代や電気代、食品等物価上昇や暑さによる買い控えあり、来店客数が減少」
- ・「商品原価の上昇は相変わらずで、原価上昇で買い控えは止まらず売上に影響」

●卸売業 概況 売上の前月比は増加との声が多い。景況感は横ばいの声が多い

☑売上 … 青果、食肉、菓子は前月比やや増加。電設資材は前月比で減少。

〔企業からのコメント〕

- ・野菜は、雨はそれなりに降るものの猛暑が一向に収まらず、全体の平均価格は高止まりしている。特にレタス、チンゲン菜が高騰。果実は、りんごは色付きが遅れ出荷が伸び悩み、前年比で減少。梨は前進出荷で価格も良く、前年比で売上増加。ぶどうの生育も良く、入荷増。これから果実がメインの月になるので、売上増加に期待。
- ・まだまだ気温が高く、季節商品（エアコン）の引き合いがある。大型物件の設備投資や更新は照明設備が多く見られ、2027年中に蛍光灯が製造中止となる影響が大きい。また、主力商品である電線ケーブル（銅）の仕入相場も上下しており、短期間での価格乱高下は販売価格に転嫁しづらく、収益に与える影響が心配。
- ・消費者の節約志向は継続しているように感じる。9月は例年よりも気温が高く、人流が少なかった。
- ・「車両認証問題」を受け、自動車関連工場を中心に、以前のような購買意欲はなく、在庫調整や買い控えが続いている。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 売上の前月比は、飲食業、宿泊業ともに減少。景況感は、飲食業では横ばい、宿泊業では悪化～横ばいで、好転との声はない

☑売上 … 飲食業、宿泊業は、8月の反動から前月比では減少。前年比は業者により増減分かれる。運輸業は前月比でやや減少～横ばい。

〔企業からのコメント〕

- ・「客単価は変わらないが、売上は昨年同期より少し悪い。9月下旬まで真夏並みの気候だった影響が大きいと思われる」「残暑が厳しかったが、少人数の宴会が複数あり」「8月の反動で9月はいつも暇になるが、順調にきて困惑している。10月が怖い」
- ・「9月初旬は台風の影響があり稼働率が低かったが、その後は安定。8月の繁忙期は過ぎたが、秋の行楽シーズンもあって引き続き状況は良い」「10～11月にかけて、宴会予約が前年比で増加している（特に週末）」「9月は曇りの日が多かったことと台風の影響でキャンセルが多くあったことで、昨年比で売上減少」「総選挙の日程が決まると、投票日当日の集客は大変難しくなるため、秋のシーズンの選挙はやるべきではないと思う」
- ・ライドシェアのサービスが全国で始まっているが、南信州ではまず乗務員確保を最重要課題として取り組み、各自自治体と協力して公共交通がなくならないような対策を講じていく必要がある。軽井沢、松本でもライドシェアが始まるが、数台のサービスなら一般のタクシー車両の稼働率を上げていけば対応できるのではないかと。
- ・「いよいよ米が値上がりした。飲食店としては大変なこと。価格がいつ安定するのか心配」「仕入業者からの値上げ依頼が多く来ており、利益を圧迫する。10月以降の値上げが今から心配」

リニア時代を迎える飯伊地域の資源（10）

小笠原氏（1） ～文化力で異彩を放つ名門～



小笠原氏の代表紋 三階菱

リニア時代を迎える当地域の資源について考えるシリーズ。これまで「飯田線」、「南アルプス」を取り上げてきた。久々の再開となり、新たなテーマは「小笠原氏」となる。

1. 清和源氏の流れ

「（飯田に関係の深い）小笠原氏は甲斐源氏だから」。今から20数年前、近所の郷土史を研究されている方との雑談の中で偶々出てきた言葉。己の浅学を恥じたものでした。

天皇家を出自とする武士団の中で清和天皇の系統は最も有名であり、殊に満仲三男の頼信が河内（現大阪府）を根拠地とした河内源氏は武士団のエース中のエースとなる。前九年・後三年の役で功を挙げた源義家（八幡太郎）の弟義光（新羅三郎）の子義清は常陸の国（今の茨城県）武田郷に拠点を置き武田姓を名乗る。義清・清光親子はその後甲斐（同山梨県）へ移り、以後武田晴信（信玄）に至る甲斐源氏として伸張していく。

清光の孫の長清は甲斐の小笠原郷（北杜市と南アルプス市の説あり）を拠点として小笠原を称し、小笠原氏祖となる。

2. 小笠原氏の飯田地域との関わり

甲斐源氏小笠原氏が信濃特に当地域との関わりが始まったのは、初代長清から7代目となる貞宗が南北朝時代足利尊氏に与して奮戦し、信濃守護職と伊賀良庄を安堵された（下伊那史）ことにより、この頃から小笠原氏が伊賀良庄に居住するようになったとされる。

伊賀良庄は現在の飯田松川から阿智川の間、天竜川右岸の広大な範囲となる。小笠原氏は当初鼎名古熊の田中（運松寺付近）から後に松尾城に移ったのであるが、平時は一段下の松尾の城地籍に住んだ（松尾館）と考えられているという（伊賀良村史）。

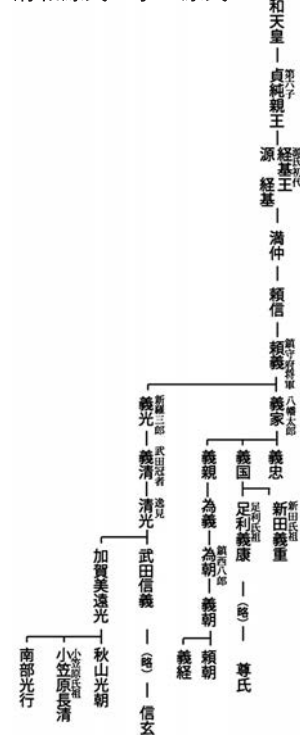
松尾城の関連では、伊賀良井（大井）の開発が小笠原氏によって開発されたとされる（同）が、冒頭記した郷土史家の新井利彦氏は、小笠原氏入部の頃の名古熊の収量は相当あり、既に田の開発がある程度進められていた（井が既に開設された）こと、近年の古井筋の発掘で得られた出土物の内容から、別の文書（北方郷旧記など）が言うとおり、開発が平安時代（承保年間）に遡ることも可能と見ている。

伊賀良庄はその後範囲を拡大し、三遠境の新野や平谷まで及んでいる（下伊那史）。

3. 小笠原氏の内訌と奮闘

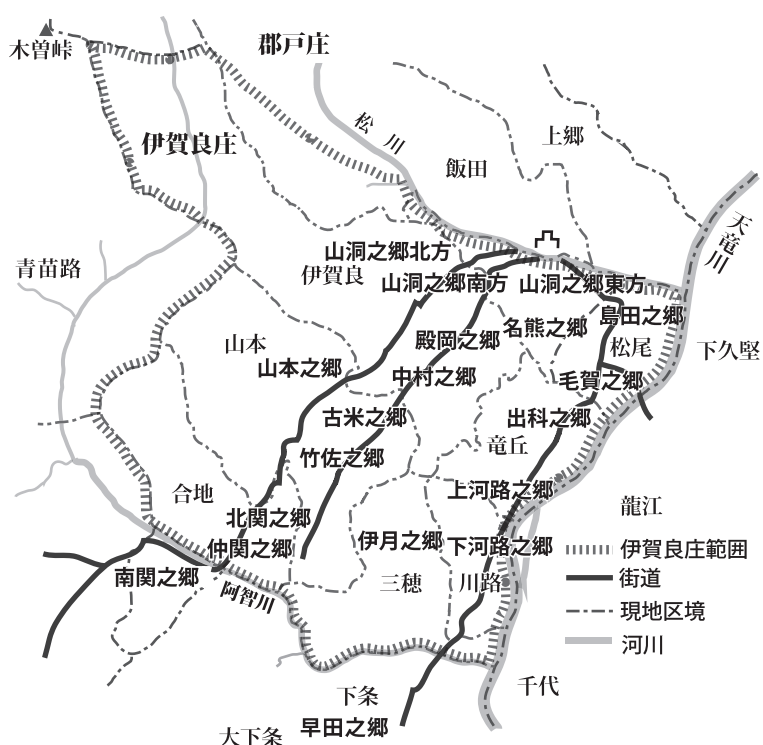
貞宗の孫長基の死後長兄長将の系統である深志系と松尾系による家督争いが始まる。ま

清和源氏と小笠原氏



伊豆木小笠原資料館展示の系図を基に加筆省略

伊賀良庄の郷名 天正7（1579）年



（新井利彦氏 作成資料より）

た飯田においても松尾城と鈴岡城の系統による争いとなる。小笠原氏の惣領職を巡る争いは鈴岡小笠原の滅亡により府中（深志）小笠原の長棟の時に統一され、府中・松尾両系統が残る形となったが、その後信濃は本家筋の甲斐武田氏の信濃侵攻を受け、対応を迫られることになる。府中小笠原では武田勢に府中を攻められ長時、貞慶は2代にわたり30年余の旅生活を送った。深志に戻ることが出来たのは武田勝頼の甲斐武田が滅亡してから。貞慶は深志を「松本」と改め、現在に至っている。府中小笠原で特筆すべきは秀政・忠脩親子の大坂夏の陣での戦死であろうか。天王寺口の徳川家康本陣の前衛に布陣していた秀政・忠脩親子へ豊臣方が急襲、両名とも落命。本陣まで迫られたものの最終的には押し返し、この戦いの中豊臣方真田信繁（幸村）も討ち取られることになった合戦となる。

松尾小笠原は武田勢に属した後、織田信長の信濃・甲斐侵攻時に織田勢に降り、本領を安堵された。両家ともその後は豊臣・徳川政権の下で転封を重ねていくが、幕末・維新まで存続する。

当地域のもう一つの小笠原氏である伊豆木小笠原氏についてであるが、松尾小笠原氏の信貴の次男長巨を祖とする系統で1千石の旗本として維新・現在まで繋がっている。伊豆木小笠原氏は一般の旗本と異なり、参勤交代が課せられた旗本で「大名級の別格扱い」（長野県立歴史館村石正行氏）であった。当地の同じく阿島知久氏、山吹座光寺氏と共に「信濃衆」と呼ばれ交替寄合衆を勤めた。村石氏は「飯田藩の外様である脇坂氏への牽制・監視の役割があったのでは」と言う。国重要文化財の旧小笠原家書院が今も遺る。

4. 「小笠原流」の始まり

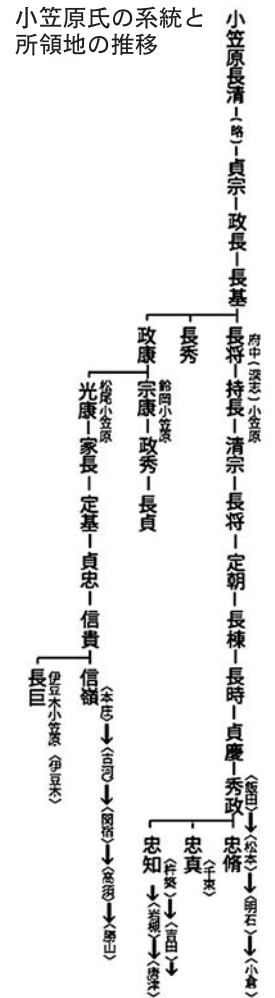
小笠原氏を考える上で欠かすことができないのが、弓馬に関する礼法を確立し伝えている家であることである。初代長清が頼朝の命により弓馬故実を議論（1194年）など、当初から弓馬に秀でた家と見做されている。貞宗の代に、宋の僧清拙正澄に学び作法を制定した（下伊那史）。小笠原家ではこれを「糾法的伝」（弓術・馬術の礼儀作法）と呼び小笠原家の中で限られた者に伝える（父子相伝）。小笠原氏の惣領職を巡る争いにはこの家伝文書の相続争いが展開したもの（下伊那史）とも見られている。糾法的伝の内容を受け継ぐ受伝者は府中系、松尾系に亘っており、松尾系である長巨も受伝者であり、伊豆木小笠原には膨大な量の伝書が保管されているという（下伊那史）。

5. 全国の小笠原氏の地を見渡すと

府中系・松尾系小笠原氏の各家は幕府の「転勤辞令」により全国を転々とするが、何れも明治維新まで存続している。小笠原氏が鎌倉時代に始まり現在まで永らえた要因として前出の長野県立歴史館村石正行氏は、「①ネットワーク力＝足利將軍家や信長、秀吉、家康との交渉力、②有職故実の家＝交渉力の裏付け、③大坂夏の陣での奮戦」を挙げている。武威もさることながら小笠原氏の文化力が存続を助けたことになる。

各地の小笠原氏の事績および各地域の小笠原氏に対する意識に着目したのが、愛知県椚山女学園大学教授の山根一郎氏である。大学で礼法（小笠原礼法）を教える山根教授は自身のブログ <https://blog.goo.ne.jp/yamanei/e/> において「小笠原氏史跡の旅」と題し、全国の小笠原氏縁の土地（飯田へも）を訪れ紹介している。その中で「（小笠原氏の）地元意識を持っているのは」として「福井県勝山市」「山梨県南アルプス市」「北九州市小倉」を挙げている（越前勝山の項）。逆にいうとそれ以外の各地域の意識は今一つということになる。

しかしながら近年、小笠原氏をテーマとした地域ぐるみの取り組みを重ねて盛り上がりが見られるのが飯田市三穂地区である。前述の伊豆木小笠原氏の旧小笠原家書院築400周年を記念する事業として、メインイベントの「記念祭」を本年10月26日に開催する。三穂地区の当該事業については次号以降で順次詳報していきたい。



下伊那史資料の系図を基に作成
くは維新までの所領地の推移

主要経済統計

項目 年月	住宅着工戸数		高 速 バ ス 乗 車 人 数							
	飯 伊 地 区		飯 田 ～ 新 宿		飯 田 ～ 名 古 屋		飯 田 ～ 長 野		伊 那 ・ 駒 ケ 根 ～ 新 宿	
	実 数	前 年 比	実 数	前 年 比	実 数	前 年 比	実 数	前 年 比	実 数	前 年 比
	戸	%	人	%	人	%	人	%	人	%
平成30年	637	△ 9.6	327,033	△ 0.3	219,979	0.6	112,882	△ 2.4	—	—
令和元	710	11.5	326,056	△ 0.3	226,581	3.0	108,454	△ 3.9	263,821	—
2	771	8.6	102,394	△ 68.6	85,747	△ 62.2	49,063	△ 54.8	71,390	△ 72.9
3	686	△ 11.0	90,496	△ 11.6	77,895	△ 9.2	39,668	△ 19.1	53,800	△ 24.6
4	638	△ 7.0	163,493	80.7	118,343	51.9	40,389	1.8	117,160	117.8
5	712	11.6	253,155	54.8	162,326	37.2	47,075	16.6	195,366	66.8
令和 5. 7	59	△ 27.2	20,682	46.9	13,603	30.3	3,994	12.1	17,270	75.8
8	53	△ 8.6	28,298	57.4	16,649	51.3	3,959	32.2	21,905	70.1
9	42	△ 2.3	20,383	39.1	13,654	37.8	3,957	19.7	17,445	57.0
10	67	52.3	21,063	22.8	14,222	18.1	4,265	6.2	17,812	42.3
11	59	△ 28.9	20,799	30.2	14,242	25.9	3,986	15.3	16,438	47.4
12	57	1.8	22,851	19.4	13,925	13.6	3,645	11.5	17,443	32.5
令和 6. 1	44	29.4	21,421	15.9	13,446	15.4	3,480	0.0	16,701	32.8
2	66	△ 5.7	18,557	23.9	13,204	20.7	3,385	14.6	15,412	33.6
3	64	113.3	24,400	10.5	15,786	5.7	3,958	1.2	20,697	17.6
4	72	26.3	19,874	11.2	12,963	△ 0.7	4,085	△ 1.5	17,130	19.2
5	46	△ 32.4	21,920	0.7	13,748	0.7	4,257	△ 1.2	18,118	7.3
6	37	△ 68.1	18,894	△ 20.9	12,321	4.4	4,123	△ 7.7	16,226	15.2
7	62	5.1	21,169	2.4	13,028	△ 4.2	3,748	△ 6.2	17,985	4.1
8	54	1.9	29,041	2.6	16,210	△ 2.6	3,891	△ 1.7	22,581	3.1
9	—	—	21,915	7.5	13,778	0.9	3,724	△ 5.9	19,325	10.8
資料出所	長野県建設部住宅課		信 南 交 通 株 式 会 社							

項目 年月	自 動 車 新 規 登 録 台 数 (松本登録事務所管内)				軽 自 動 車 新 規 登 録 台 数 (全国軽自動車協会連合会)			
	新 車		中 古 車		新 車		中 古 車	
	実 数	前 年 比	実 数	前 年 比	実 数	前 年 比	実 数	前 年 比
	台	%	台	%	台	%	台	%
平成30年	27,525	0.6	7,352	1.1	50,960	4.1	11,577	△ 1.7
令和元	29,312	6.5	8,548	16.3	51,498	1.1	12,069	4.3
2	26,002	△ 11.3	8,674	1.5	47,551	△ 7.7	12,591	4.3
3	24,672	△ 5.1	8,716	0.5	44,333	△ 6.8	12,880	2.3
4	22,564	△ 8.5	8,133	△ 6.7	44,005	△ 0.7	12,455	△ 3.3
5	26,537	17.6	8,240	1.3	47,269	7.4	12,670	1.7
令和 5. 7	2,121	14.4	700	△ 5.3	3,409	△ 8.9	997	△ 3.9
8	1,840	9.3	682	10.2	3,365	13.5	901	△ 2.1
9	2,388	14.7	662	4.3	4,416	8.3	962	△ 1.6
10	2,210	14.6	736	13.6	4,081	△ 0.5	988	7.4
11	2,314	14.9	713	14.8	4,200	0.5	917	6.5
12	1,936	6.5	718	14.9	3,471	△ 3.6	895	11.9
令和 6. 1	1,756	△ 5.2	564	31.8	2,816	△ 29.0	815	0.7
2	1,767	△ 16.3	672	20.2	3,050	△ 28.5	896	3.5
3	2,797	△ 25.6	962	9.9	4,200	△ 23.0	1,104	△ 1.8
4	1,871	△ 3.6	766	4.9	2,763	△ 23.9	1,771	△ 0.2
5	1,679	△ 9.3	782	17.4	2,958	△ 5.5	1,316	10.0
6	2,036	△ 8.1	752	△ 2.5	3,544	△ 1.0	1,134	△ 8.5
7	2,193	3.4	777	11.0	3,583	5.1	1,130	13.3
8	1,759	△ 4.4	648	△ 5.0	3,051	△ 9.3	838	△ 7.0
9	2,349	△ 1.6	677	2.3	—	—	—	—
資料出所	長野運輸支局松本自動車検査登録事務所				一般社団法人全国軽自動車協会連合会長野事務所			

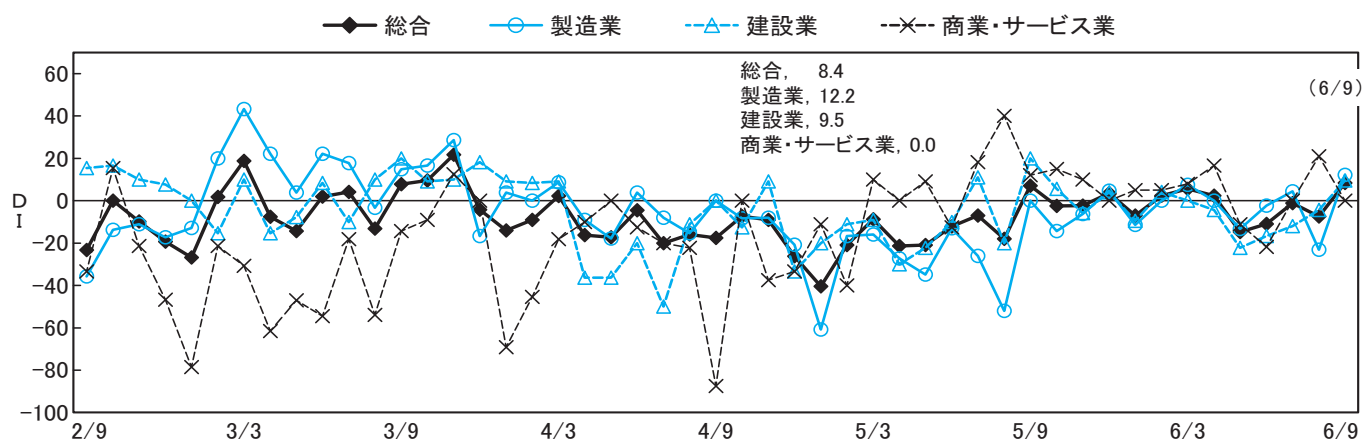
項目 年月	有効求人倍率			倒産件数 (負債額1千万円以上)		信用保証承諾 (飯田支所管内)	
	長野県	飯田管内		長野県内	飯伊地区	新規保証	前年比
	季節調整値 (但、年平均は実数)	パート含む実数	パート除く実数				
	倍	倍	倍	件	件	件	%
平成30年	1.69	—	—	93	20	1,815	△ 5.2
令和元	1.60	—	—	79	8	1,842	1.5
2	1.16	—	—	80	8	3,707	101.2
3	1.33	—	—	66	9	1,799	△ 51.5
4	1.54	—	—	70	9	1,446	△ 19.6
5	1.45	—	—	73	8	1,669	15.4
令和5.7	1.44	1.58	1.77	7	2	131	20.2
8	1.44	1.56	1.82	10	1	118	16.8
9	1.42	1.53	1.79	7	1	168	10.5
10	1.41	1.55	1.78	9	0	149	33.0
11	1.38	1.52	1.75	3	1	150	14.5
12	1.36	1.55	1.81	5	1	142	△ 17.4
令和6.1	1.37	1.47	1.73	8	0	132	9.1
2	1.35	1.39	1.57	5	1	135	5.5
3	1.37	1.33	1.47	8	1	200	16.3
4	1.36	1.33	1.50	5	1	102	△ 18.4
5	1.35	1.32	1.25	13	1	127	5.0
6	1.31	1.33	1.26	10	0	176	22.2
7	1.31	1.34	1.28	8	0	114	△ 13.0
8	1.30	1.30	1.25	6	0	106	△ 10.2
9	—	—	—	—	—	151	△ 10.1
資料出所	長野労働局・ハローワーク飯田			南信州地域振興局商工観光課		長野県信用保証協会飯田支店	

※数値は発表者によって予告なく改定されることがあります。

項目 年月	中央道利用台数（インターチェンジ出入合計）									
	飯田 I C		松川 I C		園原 I C		山本 I C		座光寺 S I C	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
	台	%	台	%	台	%	台	%	台	%
平成30年	2,765,376	0.2	1,871,062	0.3	423,828	15.1	1,017,497	△ 0.1	—	—
令和元	2,741,865	△ 0.9	1,836,395	△ 1.9	405,661	△ 4.3	1,015,783	△ 0.2	—	—
2	2,191,489	△ 20.1	1,539,468	△ 16.2	330,231	△ 18.6	849,805	△ 16.3	—	—
3	2,069,577	△ 5.6	1,334,516	△ 13.3	328,892	△ 0.4	896,142	5.5	—	—
4	2,192,851	6.0	1,331,034	△ 0.3	380,886	15.8	1,045,343	16.6	799,207	—
5	2,330,747	6.3	1,397,630	5.0	365,362	△ 4.1	1,143,659	9.4	904,767	13.2
令和5.7	204,517	7.8	121,664	8.0	33,101	△ 5.6	104,621	17.7	79,978	14.5
8	210,379	10.2	127,431	9.0	34,287	△ 4.7	107,905	9.4	80,031	16.8
9	201,388	5.5	125,935	6.4	29,683	△ 10.6	98,469	4.2	78,741	13.9
10	209,245	0.9	136,392	0.9	38,804	△ 16.3	112,661	0.0	81,020	5.3
11	207,256	6.1	136,602	3.3	29,333	△ 25.8	120,986	15.6	80,404	12.4
12	191,669	1.6	113,350	△ 0.7	20,708	△ 8.2	83,821	6.5	76,118	9.4
令和6.1	174,468	3.4	95,256	△ 1.1	21,343	△ 9.9	73,735	8.2	70,502	7.5
2	164,373	1.4	89,342	△ 0.6	17,906	△ 17.5	74,131	11.2	66,393	7.8
3	193,758	△ 4.5	106,481	△ 8.2	10,991	△ 57.2	97,991	9.0	80,421	4.0
4	187,405	△ 0.7	103,597	△ 5.2	25,583	△ 53.3	102,554	1.6	80,682	10.4
5	196,792	△ 0.9	108,259	△ 3.7	25,289	△ 15.5	103,117	4.9	84,337	9.1
6	186,779	0.8	105,290	△ 6.4	21,723	△ 8.2	106,723	16.8	83,533	13.3
7	200,714	△ 1.9	111,585	△ 8.3	24,800	△ 25.1	108,296	3.5	89,192	11.5
8	207,716	△ 1.3	118,093	△ 7.3	32,531	△ 5.1	112,903	4.6	88,402	10.5
9	200,742	△ 0.3	121,084	△ 3.9	28,304	△ 4.6	104,589	6.2	90,057	14.4
資料出所	中日本高速道路（株）名古屋支社飯田保全サービスセンター									

飯伊地区全産業景況 D I の推移

飯伊地区景況 D I (本誌調査)



飯伊地区主要経済指標

主 要 指 標		実 数	前 月 比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒 産 件 数 (負債総額 1 千万円以上) (8 月)	県 内	6 件	(前月 8 件)	(前年同月 10 件)	(前々年同月 6 件)	(令和元年同月 6 件)
	飯 伊	0 件	(前月 0 件)	(前年同月 1 件)	(前々年同月 4 件)	(令和元年同月 0 件)
住 宅 着 工 戸 数 (飯田市、下伊那郡 総数) (8 月)		54 戸	△ 12.9 %	1.9 %	△ 6.9 %	10.2 %
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (8 月)		1.30 倍	(前月 1.34 倍)	(前年同月 1.56 倍)	(前々年同月 1.68 倍)	(令和元年同月 1.47 倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新 車	2,349 台	33.5 %	△ 1.6 %	12.8 %	△ 29.7 %
	中古車	677 台	4.5 %	2.3 %	6.6 %	△ 15.8 %
軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会) (8 月)	新 車	3,051 台	△ 14.8 %	△ 9.3 %	2.9 %	△ 16.1 %
	中古車	838 台	△ 25.8 %	△ 7.0 %	△ 8.9 %	4.6 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	99,250 台	△ 4.7 %	1.4 %	5.9 %	△ 15.3 %
	出	101,492 台	△ 2.0 %	△ 1.9 %	4.4 %	△ 14.2 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	61,241 台	1.9 %	△ 4.3 %	1.5 %	△ 26.6 %
	出	59,843 台	3.2 %	△ 3.4 %	3.2 %	△ 25.5 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	15,966 台	△ 5.7 %	△ 1.9 %	△ 15.4 %	△ 1.0 %
	出	12,338 台	△ 20.9 %	△ 8.0 %	△ 13.8 %	△ 21.4 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	52,108 台	△ 7.5 %	9.6 %	14.4 %	18.5 %
	出	52,481 台	△ 7.2 %	3.0 %	7.2 %	16.5 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	44,448 台	0.3 %	11.4 %	27.1 %	— %
	出	45,609 台	3.5 %	17.5 %	33.7 %	— %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		151 件	42.5 %	△ 10.1 %	△ 0.7 %	△ 15.2 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		13 件	(前月 1 件)	(前年同月 14 件)	(前々年同月 4 件)	(令和元年同月 6 件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	21,915 人	△ 24.5 %	7.5 %	49.5 %	△ 21.4 %
	飯田～名古屋	13,778 人	△ 15.0 %	0.9 %	39.0 %	△ 26.8 %
	飯田～長野	3,724 人	△ 4.3 %	△ 5.9 %	12.7 %	△ 57.1 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	19,325 人	△ 14.4 %	10.8 %	74.0 %	△ 14.9 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,059 人	△ 2.7 %	11.0 %	24.5 %	△ 17.1 %
	右回り	2,985 人	△ 6.0 %	7.6 %	13.2 %	△ 17.0 %